

世界の森林減少の27%は大豆、牛肉、パーム油などの商品作物の大量生産が原因であるという論文が発表されました。そしてアフリカでは農地転用が森林減少の大きな原因になっています [1]。

「野生生物が大事な人間の食料が大事か」と対立させる考え方がありますが、一方で「人間も野生生物も」という努力も存在します。日本での例として、兵庫県のコウノトリの再導入とコウノトリが生息できる農村の生態系の維持、そしてコウノトリの生息地となっている水田で生産された「コウノトリ育むお米」をブランドとして販売する取り組みが挙げられます。

この「コウノトリ育むお米」のように、農業と野生生物の生存を両立させる取り組みは、世界各地で行われています [2]。



● コーヒー

インド、西ガーツのコーヒー会社は、コーヒーの木を天然木の下に植え、トラ、アジアゾウ、ヒョウなど絶滅危惧種の生息地になっている農園のコーヒーをブランド化しています [3]。提携農家の一人は「サルやジャコウネコがコーヒーの実を食べても追いやらない。私は何らかの形で補償をされているから」と新聞のインタビューに答えています。農園の生物多様性がコーヒーの価格につながっていることを農家が実感していることが分かります [4]。

● 紅茶

ゾウはお茶の葉を食べませんが、個場への移動の途中に茶畑で休息します。インド、アッサム州ではゾウと人間がお互いに危害を加えないようにしたり、ゾウが農薬を含んだ水を飲んだりしないようにするなど配慮した茶畑で生産された茶葉を、ブランド化しています [5]。

● カカオ

WCS マダガスカルは、キツネザル類が生息するマキラ自然公園の周辺の住民の生活のため、カカオ、バナナ、クローブなどの持続可能な生産を支援しています [6]。

● 米

カンボジア、シェムリアップの農家が生産する有機ジャスミン米は、絶滅危惧種のアオウシをシンボルにしてブランド化しています。この地はバンテン（野生のウシ）など60種以上の絶滅危惧種が生息する国立公園への密猟者や伐採者の通り道にあり、農家は国立公園の保護に協力しています [7]。

● バナナ

バナナ栽培は農薬が周辺の環境に影響を与えるだけでなく、排水を通じてサングレへ影響を及ぼすことが問題になっています。危険な農薬の使用を止める、有機栽培にするなどで認証を得たバナナが販売されています [8]。

これらの商品には、日本では買えないものもあります。しかし、どのように生産された商品なのかに関心を持って買うものを選んだり、消費者の声として企業に環境への配慮を求めたりすることは、遠くの国の野生生物を守ることに繋がっています。

[1] Philip G. Curtis1, Christy M. Slay1, Nancy L. Harris, Alexandra Tyukavina, Matthew C. Hansen (2018)\* Classifying drivers of global forest loss\* Science 14 Sep 2018;Vol. 361, Issue 6407, pp. 1108-1111

[2] Wildlife Friendly <http://wildlifefriendly.org/buy-wild/>

[3] コーヒー Wild Kaapi <https://wildkaapi.com/>

[4] The Hindu "How wildlife-friendly is your brew?" 2017.6.2

<https://www.thehindu.com/life-and-style/homes-and-gardens/worlds-first-certified-wildlife-friendly-coffee/article18706346.ece>

[5] 紅茶 Elephant Friendly Tea <https://elephantfriendlytea.com/>

[6] カカオ <https://madagascar.wcs.org/Wild-Places/Makira-Natural-Park.aspx>

[7] 米 <http://ibisrice.com/>

[8] バナナ <https://www.rainforest-alliance.org/lang/ja/work/agriculture/bananas> <http://www.fyfiles.com/our-passion-for-fruit/organics-and-fairtrade/organics>

JWCS 認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO法人格取得: 2001年 認定取得: 2014年

名誉会長: 小原秀雄 (女子栄養大学名誉教授) 会長: 安藤元一 (ヤマガキ学園大学名誉教授) 副会長: 小川潔 (東京芸術大学名誉教授) 森川純 (筑波大学名誉教授) 事務局長: 鈴木希理恵 理事: 永石文明 (園芸コラーパー) 並木美砂子 (帝京大学名誉教授) 吉沢広治 (国際学院大学教授) 監事: 藤田厚子 (女子栄養大学教授) 顧問: 岩田好宏 (元・中学高校教諭) 山根壽一 (京都大学総長)

〒180-0022

東京都武蔵野市境 1-11-19 モウト APT102

Tel&Fax: 0422-54-4885

E-mail: [info@jwcs.org](mailto:info@jwcs.org) <http://www.jwcs.org>

[会費・寄付のご送金先]  
郵便振替 00160-9-715145  
加入者名 野生生物保全論研究会  
正会費年間 5000円

表紙: イボイノシシ

JWCS通信 2018年度通巻85号

2018年11月発行

発行人 = 安藤元一

編集 = 鈴木希理恵

デザイン: 土肥優子

